Rinnai システムキッチン用［ビルトインコンロ］

設置説明書

この機器の設置には資格が必要です。

型　　式	型式の呼び	トッププレートのタイプ	トッププレートの幅	備　　考
RHS71W15□□R	RHB71W15GR-W	ガラストップ	75cm	レンジフード連動機能付両面焼グリルタイプ
RRB71W15□□R	RRB71W15GR-W			
RHS31W15□□R	RHB31W15GR-W		60cm	
RRB31W15□□R	RRB31W15GR-W			
RB71AW15□□R	RHB71W15GR2-W		75cm	両面焼グリルタイプ
RB31AW15□□R	RHB31W15GR2-W		60cm	

※「型式」の□内の文字は、トッププレートのバリエーションを示す。

◆設置される方へのお願い

- この機器を安全に正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みになって指定された設置を行ってください。
- 設置が終わったら 7 設置後の点検確認 のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。
- 設置終了後は、この「設置説明書」を「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。

ページ

1 安全に正しく設置していただくために ―― 2～5
2 寸法図 ―― 6
3 同梱部品と設置後不要となる部品の確認 ―― 7
4 コンロの単独設置 ―― 8～18
5 ガス配管工事・ガス配管接続工事・配線工事 ―― 19
6 コンロとオーブンの複合設置 ―― 20～26
7 設置後の点検確認 ―― 27
8 試点火および試運転 ―― 28

1 安全に正しく設置していただくために

機器を安全に正しく設置していただくためや、設置作業者や使用者への危害や財産への損害を未然に防止するためにこの説明書では、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示について次のような意味があります。

分解禁止　一般的な禁止　一般的な警告・注意　必ず行う

特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

⚠ 警告

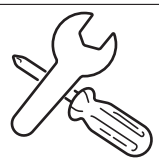
■設置は必ず、この「設置説明書」と「ガス機器の設置基準および実務指針」（一般財団法人日本ガス機器検査協会刊）に従う

変則的な設置をすると事故や火災の原因になります。

■この機器を安全に正しくご使用いただくために、この「設置説明書」をよく読み、指定された設置を行う

■ガス配管接続には専門の資格・技術が必要です

金属管や金属可とう管などによる機器へのガス配管接続工事・取りはずし工事は必ず有資格者が行ってください。



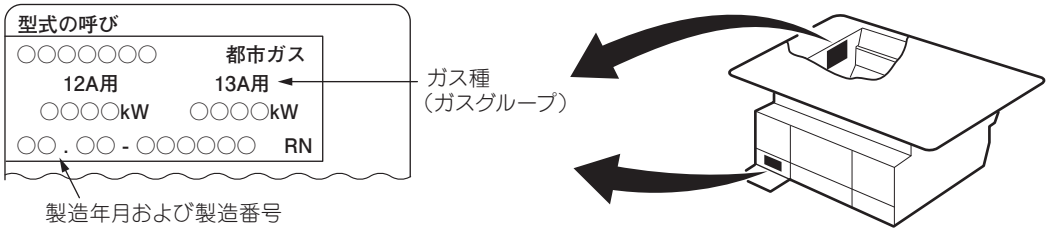
⚠ 注意

■設置する機器が使用するガス種（ガスグループ）に適合していることを銘板で確認する

合っていない場合そのまま使用すると火災や不完全燃焼により、一酸化炭素中毒になったり、異常点火でやけどしたりすることがあります。また故障の原因にもなります。

銘板は機器内左後方側面と前面のグリル下部飾りを開けたグリル操作部正面に貼ってあります。

〈例〉銘板（12A・13A の場合）

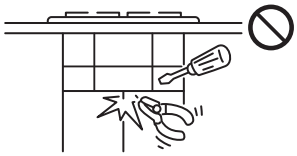


⚠注意

■絶対に分解は行わない

分解禁止

設置で必要なところ以外は絶対に分解は行わないでください。
一酸化炭素中毒のおそれがあります。また、機器故障やガス漏れや火災の原因になるおそれがあります。



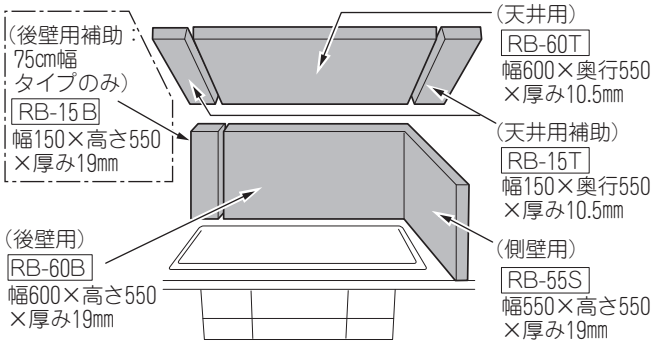
■業務用として使用しない

この機器は家庭用専用ですので、業務用のような使いかたをすると、機器の寿命が極端に短くなります。

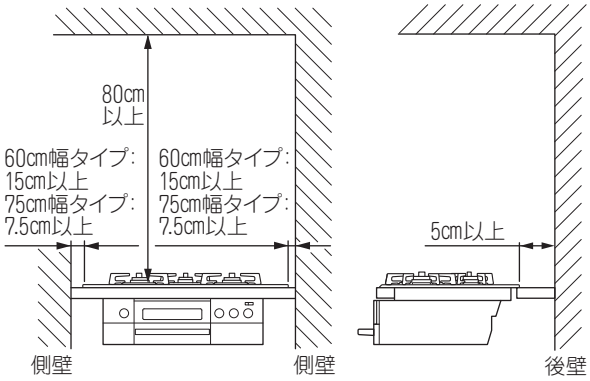
■設置するときは可燃物との距離を確実に離す

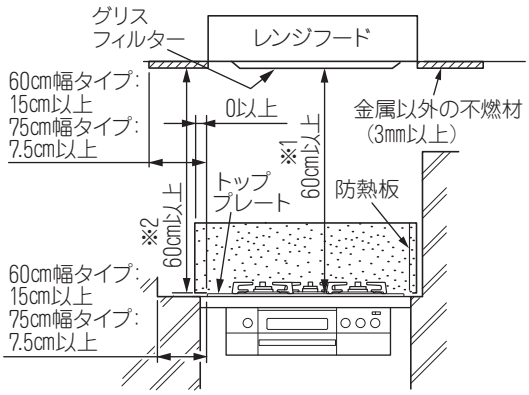
- 火災予防条例で定められています。必ず守ってください。
  距離が近いと火災の原因になります。また可燃性の壁にステンレス板などを、直接取り付けて使用しても、熱伝導で長年の間に可燃物が炭化し火災になることがあります。
- 周囲に可燃物（木製の壁、棚など）のある場合は次のようにしてください。
  トッププレートより上の側面は〔75cm 幅タイプ：7.5cm 以上、60cm 幅タイプ：15cm 以上〕、後面は 5 cm 以上、上部はトッププレート上面より80cm 以上離して設置します。
- 可燃性の壁（ステンレス板などを貼り付けた可燃性の壁も含む）から側面は〔75cm 幅タイプ：7.5cm 以上、60cm 幅タイプ：15cm 以上〕、後面は 5 cm 以上、また、上部はトッププレート上面から80cm 以上離して設置できない場合は、壁面に別売の防熱板を取り付けてから設置します。
  調理台・流し台の側面などが可燃性で機器のトッププレートより高い場合も、流し台側面を保護してください。
- オーブンとの複合設置をする場合、オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照し、**トッププレートから後面の可燃物との距離**を確認し、コンロとオーブン両方満足する距離を確保して、設置してください。

防熱板（別売）



※防熱板については、お買い上げの販売店、またはもよりの当社事業所にお問い合わせください。





※1．レンジフード以外の場合は、80cm 以上
※2．不燃材がない場合は80cm以上

- 前記の設置基準は、共同住宅など（戸建て専用住宅、共同住宅、店舗併用住宅の住宅部分であり、営業用および一般事業所の従業員食堂、学校、病院の給食用等の以外のもの）の用途の建築物であり、また排気方式が、各住戸の厨房用ダクトが単独排気方式の場合に適用されます。

⚠注意

■設置するときは、下記の項目に注意する

〈法律・法令など〉

- 燃焼機器を設置する場所には、建築基準法や火災予防条例に定める防火措置を施す必要があります。
- この機器を設置する台所が、建築基準法に定める（内装制限を受ける調理室）に該当する場合は、台所全体についても内装材の制限を受けます。

〈設置場所など〉

- 車両・船舶には設置しないでください。
- 機器設置時は、ガス工作物、電気工作物などの他の設備に悪影響を与えない位置に設置してください。
- 引火性の危険物（ガソリン・灯油・ベンジン・接着剤など）や、業務用薬品（アンモニア・硫黄・塩素・エチレン化合物・酸類などの腐食性薬品）を周囲で保管したり、取り扱う場所には設置しないでください。
- 十分に換気のできるところに設置してください。
- 水のかかるところには設置しないでください。
- 水平で安定した場所に設置してください。

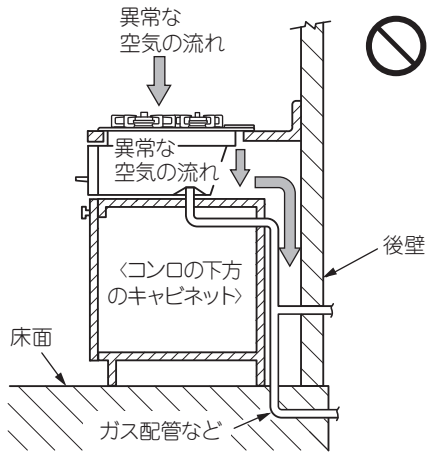
〈周辺環境など〉

- 湯沸器や樹脂製の照明器具の下へ設置しないでください。
- 棚の下など落下物の危険のあるところには設置しないでください。
- 排気口をステンレスの水切りカバー（水返しカバー）などでふさがないでください。
- 強い風が吹き込む場所や機器本体後方から風が吹き込む場所には設置しないでください。
  （点火しなかったり、温度センサーや立消え安全装置が正しくはたらかないことがあります。）
- 保守メンテナンスをする場所が確保されていることを確認してください。
  設置後、トラブルの原因になったり、点検・修理に支障をきたしたりします。

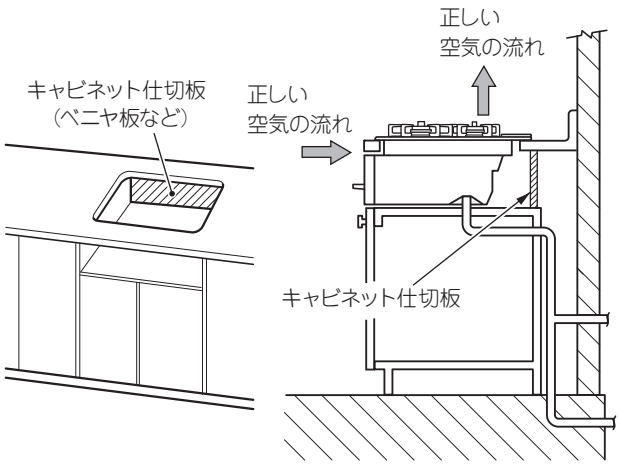
設置場所を決めるときは、お客様とよく相談してください。

■キャビネットを背板などでふさぐ

コンロ後方がふさがれていない場合は、ベニヤ板やアルミテープなどによりふさいでください。
コンロ後方がふさがれていないと、コンロと後方空間や外気との間で異常な空気の流れが起こる場合があり、炎がもぐりこんだり、消火したり、不完全燃焼することがあります。



キャビネット仕切板設置例

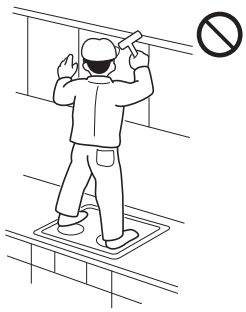


⚠注意

■機器の上に乗らない、傷つけない

機器の上に絶対に乗らないでください。トッププレートが破損し非常に危険です。

トッププレートに強い衝撃を与えたり、過度な荷重をかけたりしないでください。トッププレートの破損の原因になります。



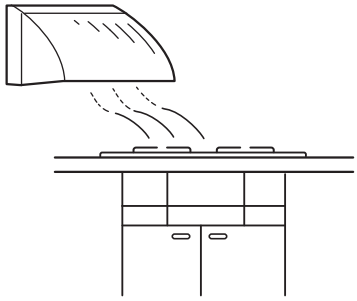
■十分な換気設備がある場所に設置する

この機器はレンジフードなどでの換気が必要です。

設置するガス機器および同一室内に設置してある他の機器のガス消費量に対し、十分な換気設備がある場所に設置してください。

ただし、室内給気式（FE・CF）給湯器・ふろがまを使用している場合は、レンジフードなどを回すと排気ガスが逆流して一酸化炭素中毒の原因になるおそれがあります。

レンジフード連動機能付タイプの場合、該当給湯器などの同一室内への設置は避けてください。



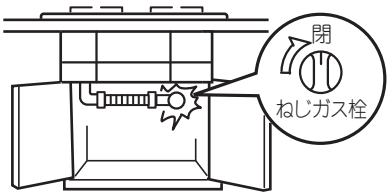
■機器設置の際には必ず手袋をする

けがの防止になります。

■設置後は必ずガス栓（ねじガス栓）を閉める

機器のガス栓（ねじガス栓）は機器下方または、となりのキャビネット内にあります。

ガス事故防止のため必ず行ってください。



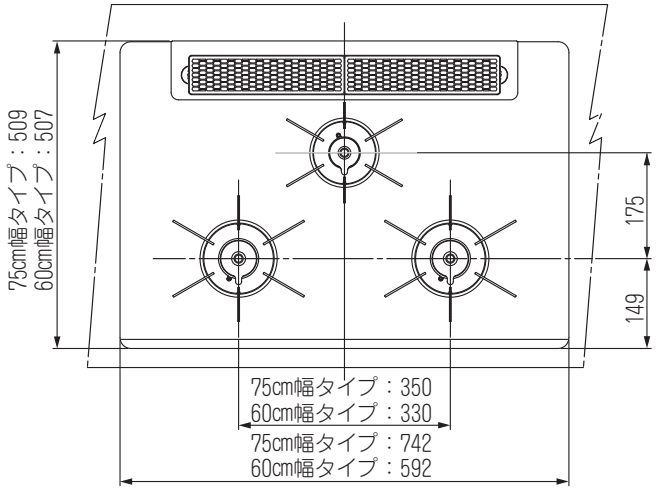
お願い

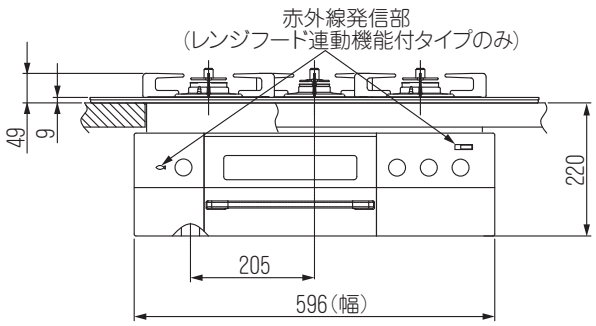
- ◉本体をタイルやモルタルで、塗り込まないでください。
- ◉耐久性などの点から、できるだけ湿気の少ないところを選んでください。
- ◉ワークトップ材は熱硬化性樹脂化粧板（JIS・K・6903）またはこれと同等以上の材料をお使いください。
- ◉表面がニス引きのものは変色するおそれがあるので使用しないでください。
- ◉本機器を大型ゴミなどで廃棄される場合は、必ず乾電池を取りはずしてください。
  そのままにしておきますと、思わぬ事故になります。

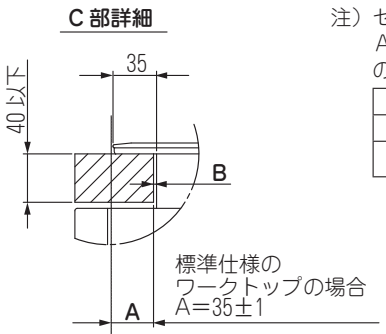
2 寸 法 図

1．外形寸法図

（単位：mm）

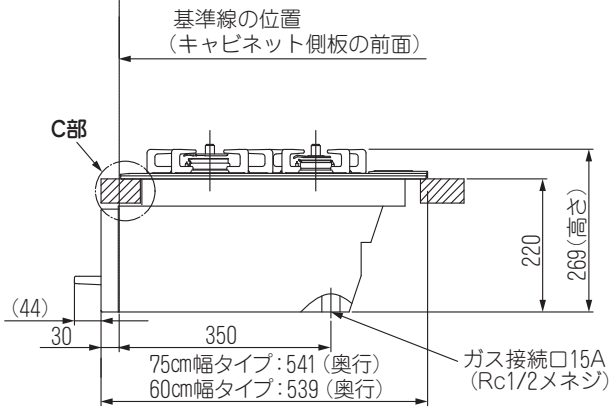






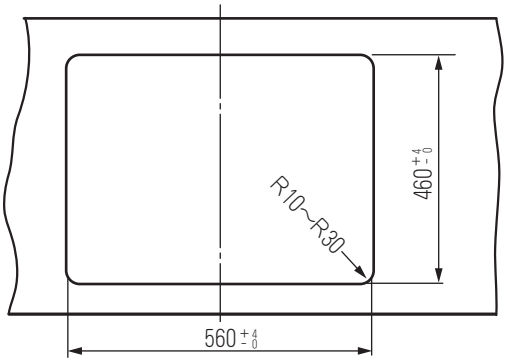
注）セットフリータイプなので
A寸法は「15±1～35±1」
の範囲で設置できます。

A寸法	B寸法
35	2.5
15	22.5

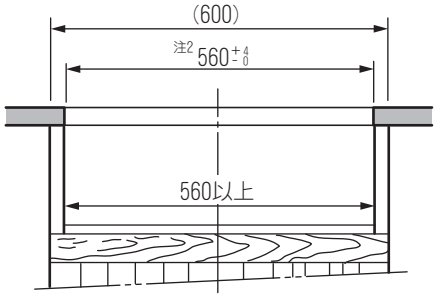


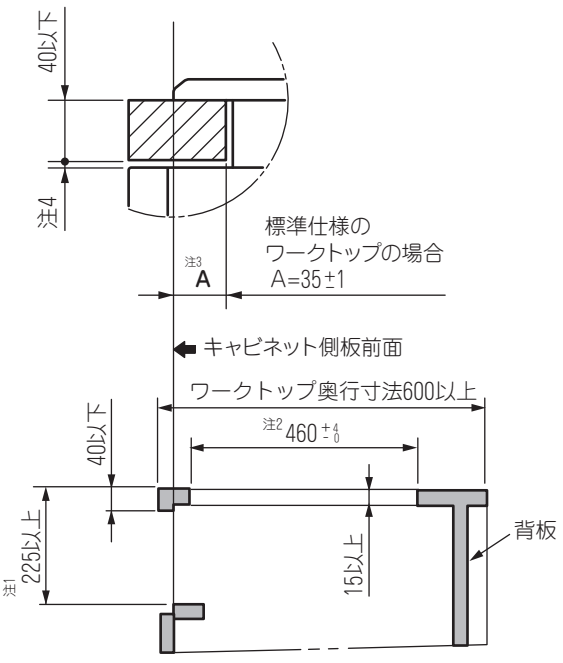
2．キッチン組み込み寸法図

（単位：mm）



ワークトップ切り込み寸法





注1　高さ寸法はワークトップ上面からの寸法。

注2　ワークトップ開口寸法。公差内になるよう加工する。

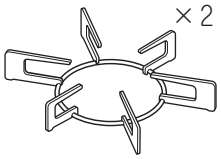
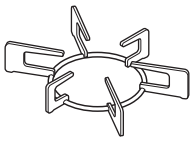
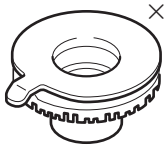
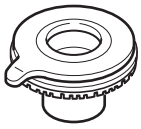
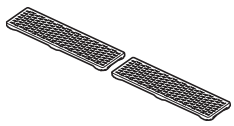
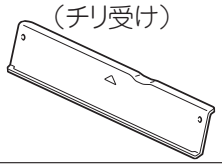
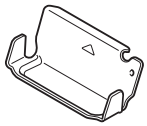
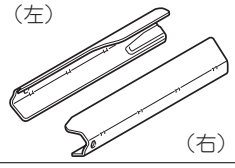
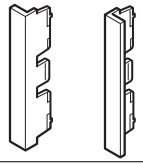
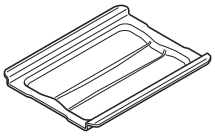
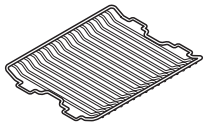
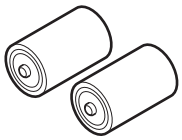
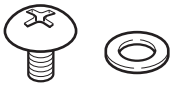
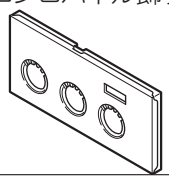
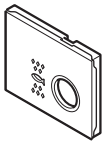
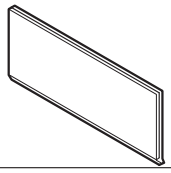
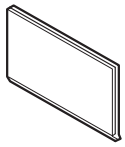
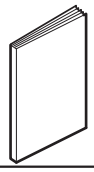
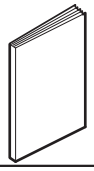
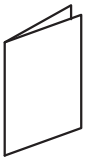
注3　A寸法は15～35mm の範囲で設置可能。

注4　機器設置時において、空気が流れるようにワークトップ下面（パッキンなどを含む）と本体上面とのすき間を必ず 3 mm 以上確保する。

3 同梱部品と設置後不要となる部品の確認

1．同梱部品の確認

① 部品の不足がないことを確認する。

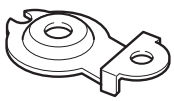
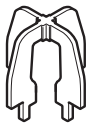
部品名・形状					
	ごとく（大）×2 	ごとく（小） 	バーナーキャップ（大）×2 	バーナーキャップ（小） 	排気口カバー 
	※後部カバー［左］（チリ受け）	※後部カバー［中］（チリ受け） 	※後部カバー［右］（チリ受け） 	下火カバー （左）  （右）	エンドピース 
	グリル皿 	グリル焼網 	単1形アルカリ乾電池 	トッププレート固定ねじ ×2  （ねじが黒色のみパッキン付）	
	グリル庫内に収納しています。			トッププレート左後部にテープ止めしています。	
	コンロパネル飾り 	グリルパネル飾り 	コンロ下部飾り 	グリル下部飾り 	取扱説明書 
	グリル活用レシピ 	かんたんガイド 	※魚とって		

◉※印の部品は同梱されていない型式があります。付属品の有無は取扱説明書を参照してください。

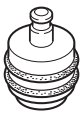
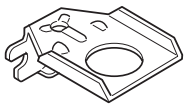
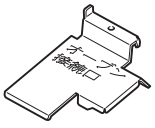
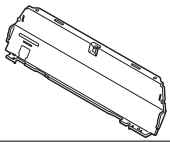
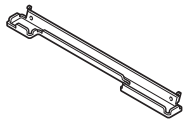
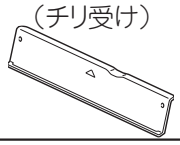
2．設置後不要となる部品の確認

① 設置方法によって不要となる部品が異なるので必ず確認する。

〈コンロの単独設置の場合〉

部品名・形状				
	底シール栓	底シール栓押え板 	設置用キャップ（大）×2	設置用キャップ（小） 

〈コンロとオーブンの複合設置の場合〉

部品名・形状					
	接続用シール栓 	シール栓押え板 	接続口カバー 	本体カバー 	本体カバー補助 
	後部カバー［左］（チリ受け）	後部カバー［中］（チリ受け） 	後部カバー［右］（チリ受け）	設置用キャップ（大）×2	設置用キャップ（小）

4 コンロの単独設置

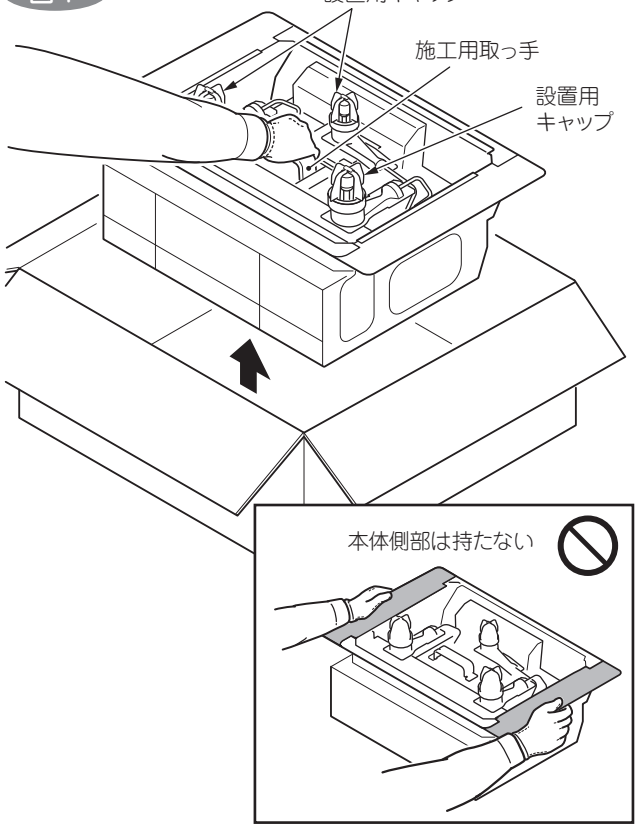
1．開梱・機器の取り出し

① 開梱して機器を取り出す。 図1

◉輸送のため各部品にあて紙や包装部材があるので、全部取り除く。

※必ず施工用取っ手を持ってください。本体側部を持って機器を持ち上げると、本体側部が変形してトッププレートが浮き上がる原因になります。
※設置用キャップをはずさないでください。トッププレートを取り付けるときに使用します。

図1



② グリルとびらとグリル庫内のグリル焼網、グリル皿、グリル皿受けを取りはずす。

図2 図3

※グリルとびらのはずし方は P11 図9 を参照。

図2

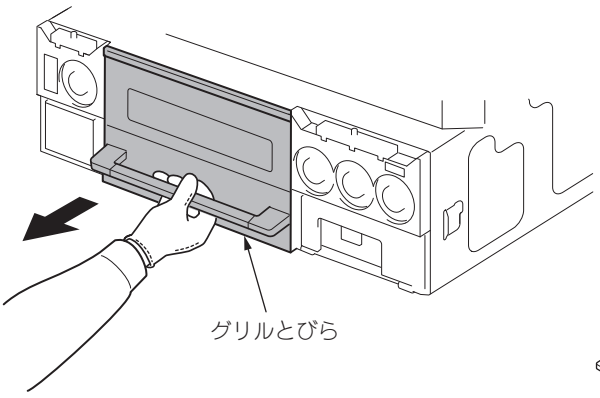
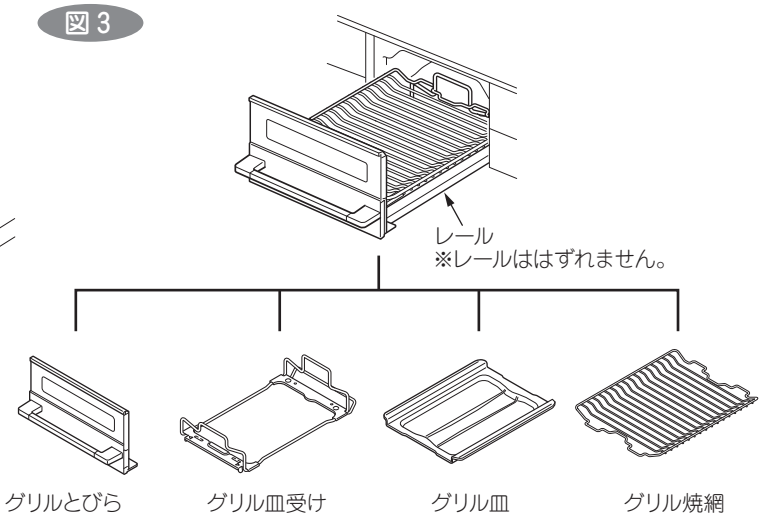


図3



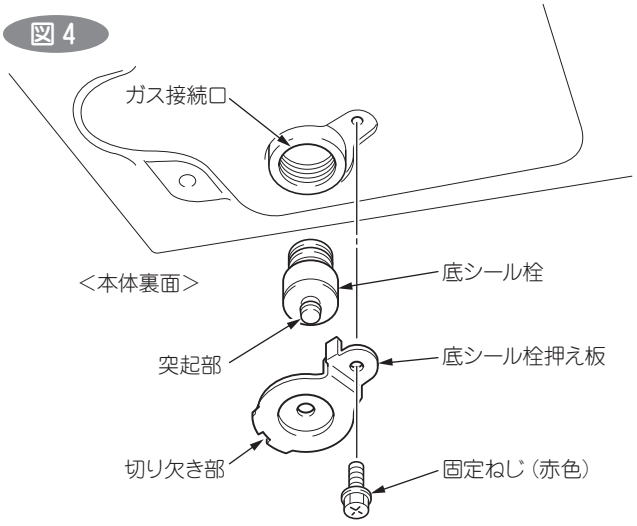
2．コンロ単独設置用の底シール栓の取りはずし

① ガス接続口の底シール栓を取りはずす。

図 4

◉本体底面左側にある固定ねじ（赤色）1 本をはずし、底シール栓押え板をはずし、底シール栓の突起部をペンチなどではさんで、引き抜く。

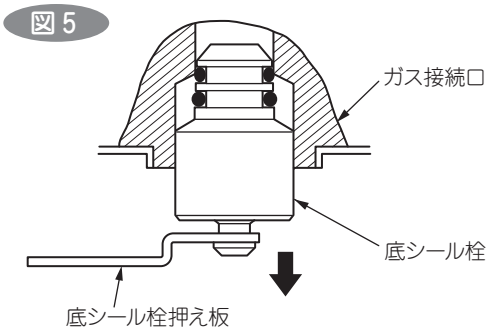
図 4



◉ペンチなど工具がない場合は、底シール栓の突起部に底シール栓押え板の切り欠き部を引っかけて引き抜く。 図 5

※取りはずした底シール栓、底シール栓押え板、固定ねじ（赤色）は不要です。

図 5



⚠注意

■オーブンを接続する場合は、底シール栓をはずさない

オーブンを接続した場合、底面のガス接続口が開いたままになるため、ガス漏れの原因になります。

■機器設置とガス配管接続工事を同時に行わない場合は、機器設置時には底シール栓をはずさない

ガス接続口にほこりや異物が入るため、ガスのつまりやガス漏れの原因になります。

3．コンロの設置

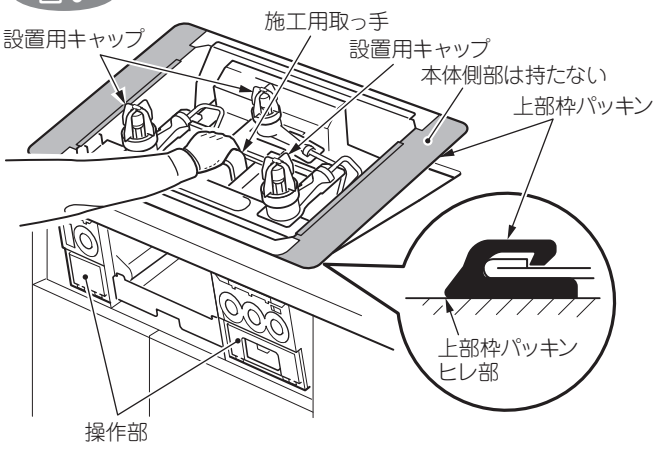
① コンロを組み込む。 図 6

◉操作部が収納されているか確認する。

◉コンロの施工用取っ手を持ち、前面を先に挿入して、操作部・操作ボタンなどに傷がつかないよう注意しながら、コンロを組み込む。

※必ず施工用取っ手を持ってください。本体側部を持って機器を組み込むと、本体側部が変形してトッププレートが浮き上がる原因になります。
※バーナー・バーナー支えなどの燃焼部品を持って組み込むと、燃焼不良の原因になります。

図 6



お願い

◉設置用キャップを装着したままワークトップに組み込んでください。

◉上部枠パッキンが本体からはずれていないか確認してください。

◉必ず上部枠パッキンのヒレ部が丸まっていないか確認してください。（特にコーナー部）丸まっている場合は、丸まりを直してください。

4．下火カバー・グリルとびら・グリル皿受け・グリル皿・グリル焼網・エンドピースの取り付け

●詳しくは取扱説明書を参照。

◉下火カバーの穴（1カ所）をグリルケース側面にあるピンに通してグリルケース内に取り付ける。 図 8

◉グリルとびら、グリル皿受け、グリル皿、グリル焼網を機器本体に取り付ける。 図 9

◉エンドピースの上下・中央の凸部を本体側面の穴に差し込む。 図 7

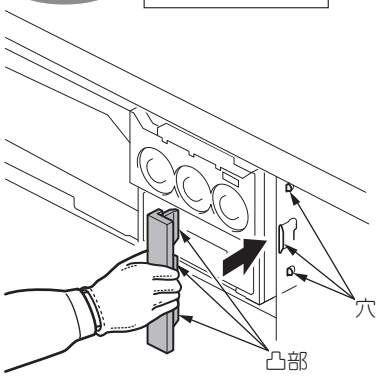
※エンドピースは左右共通です。

お願い

◉下火カバー後部をグリルケース側面に押し当てグリルケース奥の凸部と下火カバーの凸部が合っていることを確認してください。

◉下火カバーにぐらつきがないか確認してください。

図 7 エンドピース



※図はエンドピース（右）を示す。
エンドピース（左）も同様に左側へ取り付ける。

図 8 下火カバー

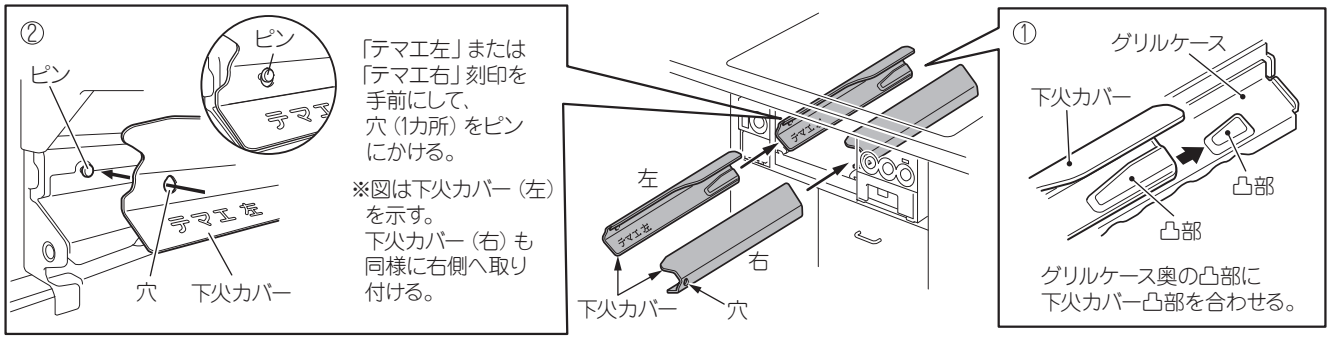
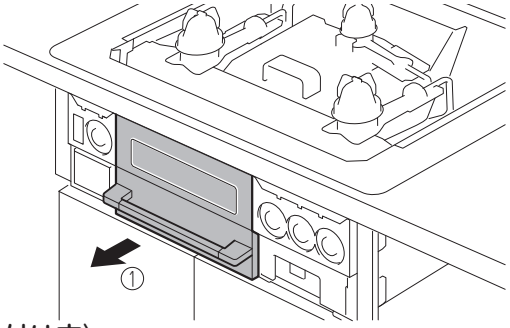


図 9

グリルとびら・グリル皿受け・グリル皿・グリル焼網

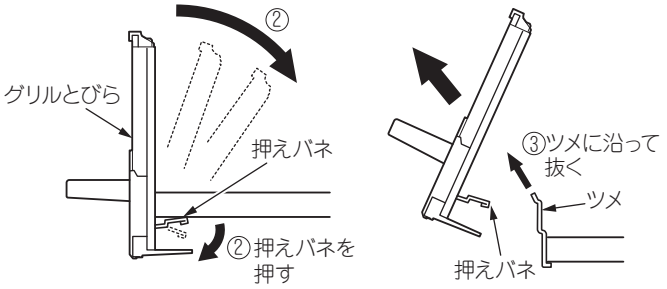
〈取りはずし方〉

① グリルとびらを止まるまで引き出し、グリル焼網、グリル皿、グリル皿受けを取り出す。



② グリルとびら下部についている押えバネを矢印方向に押しながら回転させる。

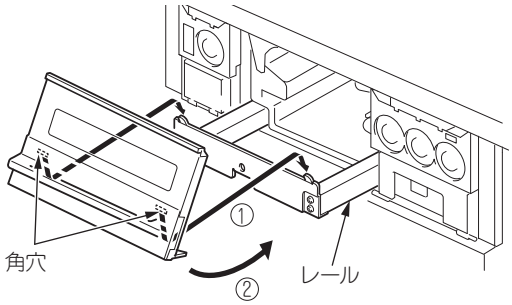
③ ツメの向きに沿って引き抜く。



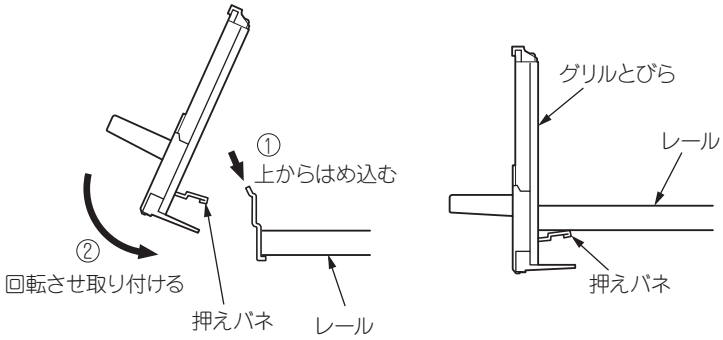
〈取り付け方〉

① レールのツメ 2 カ所にグリルとびらの角穴をはめ込む。

② グリルとびらを↘の方向に回転させる。

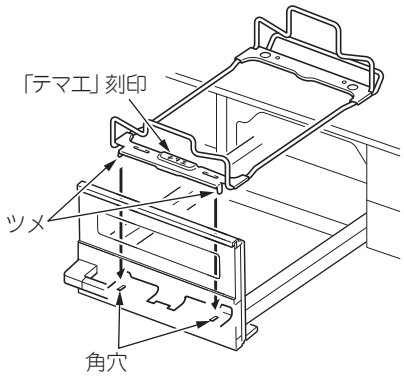


③ 押えバネがレールに確実にはまっているか確認する。



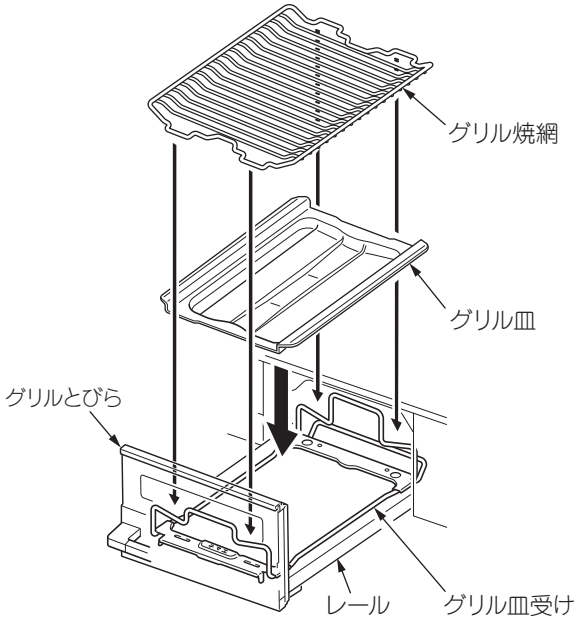
④ グリルとびらを止まるまで引き出す。

⑤ グリル皿受けの「テマエ」刻印を手前にして、ツメをレールの角穴に取り付ける。(2 カ所)



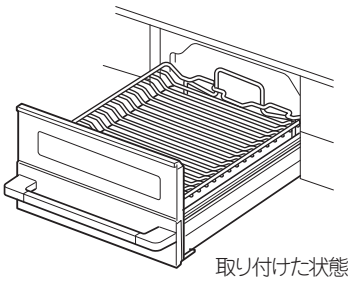
⑥ グリル皿をグリル皿受けに取り付ける。

⑦ グリル焼網をグリル皿受けに取り付ける。



⑧ 確実に取り付けられているか確認する。

※グリルとびらを閉めるとき、こすれる音がしたり、スムーズに動かなかったりする場合は、正しく取り付けられていないのでやり直す。
破損するおそれがあるため、無理には閉めない。


取り付けた状態

お願い

◉「魚とって」が同梱されている機種は、「魚とって」をグリル庫内に置かないでください。

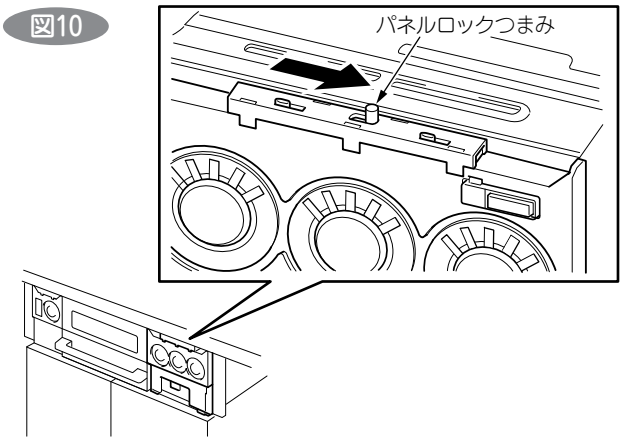
5．コンロパネル飾り・グリルパネル飾り・コンロ下部飾り・グリル下部飾りの取り付け

① コンロパネル飾り、グリルパネル飾りを先に取り付ける。

◉コンロパネル飾り、グリルパネル飾りの保護シートをはがす。

◉パネルロックつまみを右側にスライドさせて、パネルロックを解除する。 図10

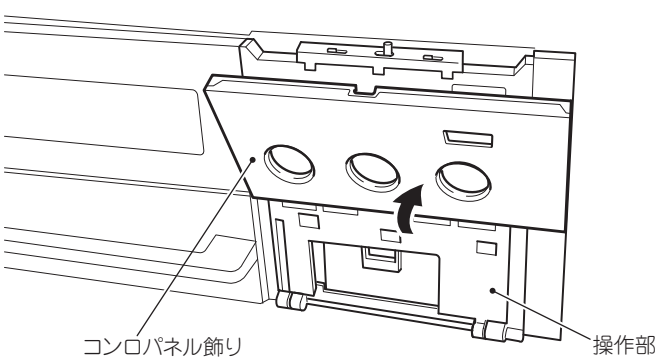
図10

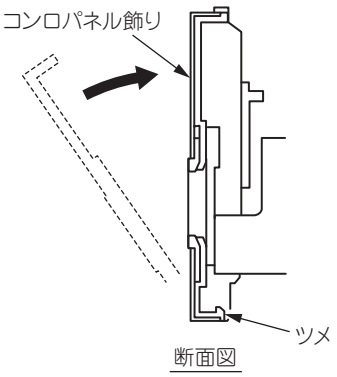


◉コンロパネル飾りを斜めにし、下側のツメ（2カ所）を奥まで押し込む。 図11

◉コンロパネル飾りを持ち上げながら回転させ、本体に密着させる。

図11





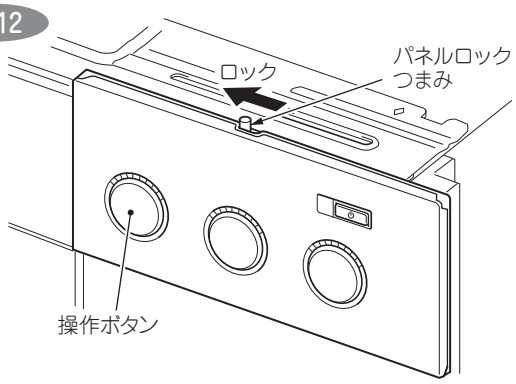
※操作部を半開きの状態にして取り付けると取り付けやすくなります。

◉コンロパネル飾り上面にある、パネルロックつまみを左側へスライドさせて、コンロパネル飾りを固定する。 図12

※各操作ボタンを押して操作ボタンを出し、スムーズに回転することを確認する。

◉グリルパネル飾りも同様に取り付ける。

図12



お願い

◉パネルロックつまみを必ず左側へ止まるまで動かして固定してください。

◉ワークトップのすき間に指が入らない場合は⊖ドライバーなどの薄いものでパネルロックつまみをスライドさせてください。

◉パネルに傷をつけないように注意し、作業を行ってください。

② コンロ下部飾り、グリル下部飾りを取り付ける。

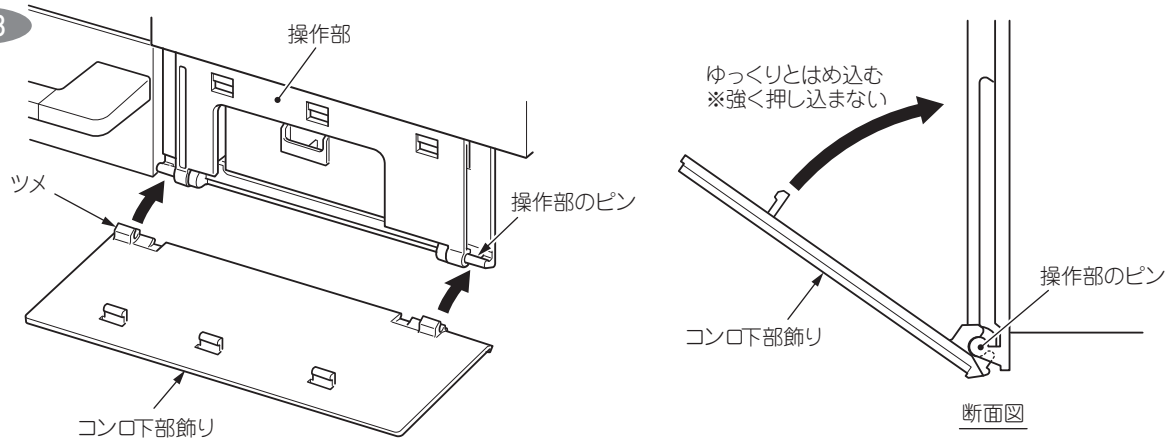
◉コンロ下部飾りの左右のツメの溝を操作部のピンに片方ずつはめ込む。 図13

◉コンロ下部飾りをゆっくり回転させて操作部にはめ込む。

※操作部を強く押し込むと破損するおそれがあるため、ゆっくりとはめ込む。

※取り付け後、操作部の動きを確認する。動きが重かったり、引っかかりのあるときはコンロパネル飾りのツメがしっかりはまっていないことが考えられるため、その場合は、前頁のパネル飾りの取り付けをやり直す。

図13



◉グリル下部飾りも同様に取り付ける。

◉コンロ下部飾り、グリル下部飾りの保護シートをはがす。

6．コンロの固定

① コンロをワークトップに固定する。 図14

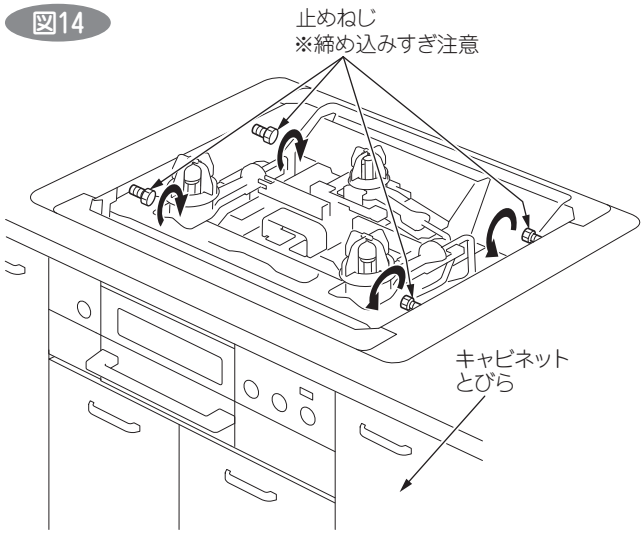
◉コンロを固定する前に、コンロの前面とキャビネットとびらの前面が合うようにコンロの位置を調整する。

◉本体側面についている止めねじ4本を回して、コンロを動かない程度に固定する。

※コンロが動くと感震器の誤作動の原因になります。（RBタイプは、感震器が搭載されていません。）

※締め込みすぎると、ワークトップを壊したり、コンロが変形したり、トッププレートが浮く原因になります。

図14



〈使用工具〉

プラスドライバー、スパナ（呼び8）、ペンチ

◉スパナがない場合は、ペンチ・プライヤー・ラジオペンチなどで止めねじの六角部をはさんで、ねじを回す。

※工具を使用する際には、バーナーなどの部品に傷をつけないようにする。

7．トッププレートの取り付け

① トッププレート前部裏面のバネ（2カ所）を下向きに起こす。 図15

※バネを起こしたままトッププレートをワークトップなどに置いたり、バネをあまり強く下向きに起こさないでください。バネが変形するおそれがあります。

② 設置用キャップをガイドにして、トッププレートを取り付ける。 図15

◉トッププレート後部を本体上部枠後に合わせる。

◉点火プラグと立消え安全装置をバーナーリングの穴へ通し、トッププレート前部裏面のバネ（2カ所）をコンロ本体の長穴に通すように取り付ける。 図15 図16

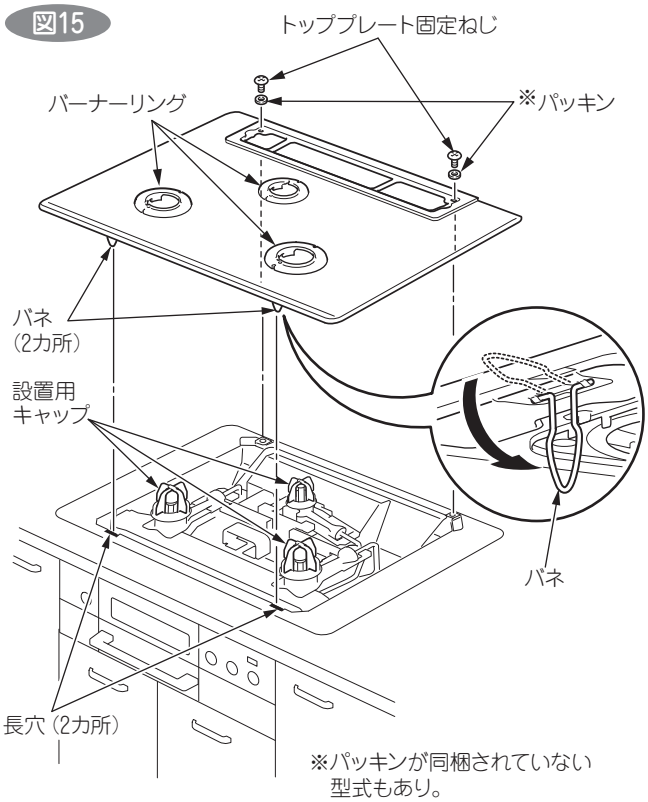
※バーナーリングの穴が点火プラグや立消え安全装置に乗り上げないように位置を調整する。

※点火プラグと立消え安全装置の部分で、トッププレートの乗り上げがないことを確認する。

※トッププレート前部裏面のバネ（2カ所）がコンロ本体の長穴に入っていることを確認する。

◉トッププレートを上から押さえ、バネ（2カ所）を差し込む。

図15



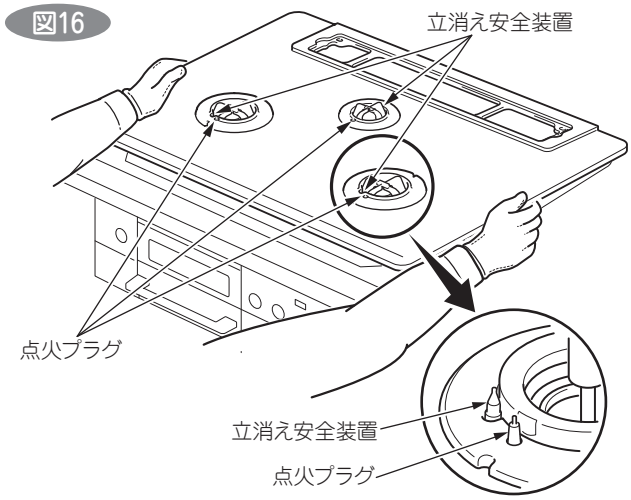
※トッププレートの取り扱いには十分に注意してください。割れや欠けの原因になります。

※トッププレートのコーナー部（4カ所）を持って取り付けないでください。

※裏面のパッキンがよれたりずれたりしないように注意してください。

③ トッププレート左後部にテープ止めしてあるトッププレート固定ねじを使用して、トッププレートを固定する。 図15

図16



お願い

◉バーナーや立消え安全装置を傷つけたり、点火プラグを曲げたりしないよう注意してください。

◉バーナーリングを持って運搬しないでください。

◉バーナーリングに傷がつくのでリング側を立てかけたり、床などに置いたりしないでください。

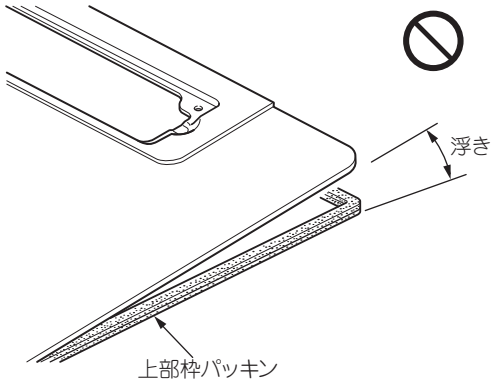
◉バネが奥へ倒れないよう注意してください。

④ トッププレート取り付け後、設置用キャップを取りはずす。

⚠注意

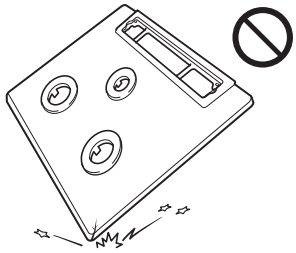
■トッププレートは誤った取り付けで使用しない

トッププレートを正しく取り付けないと点火しないなどの場合があります。



■トッププレートは端面に衝撃を加えない

割れや欠けの原因になりますので十分に注意して取り扱ってください。

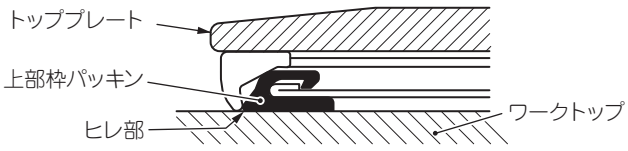


■トッププレートは確実に取り付ける
■トッププレートの取り付けは浮きがないように上部枠パッキンに確実にはめ込む

取り付けがかたい場合は上部枠パッキンを本体側に押し込んでなじませてください。

■上部枠パッキンのヒレ部が丸まっていないか必ず確認する

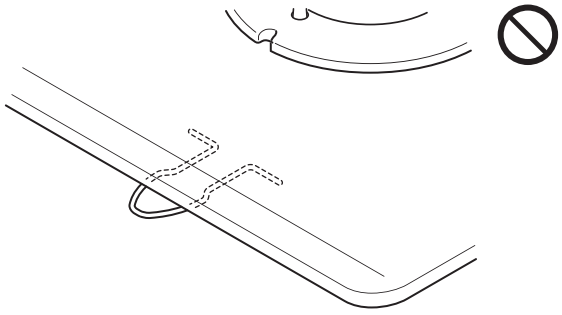
ヒレ部が丸まっている場合は丸まりを直してください。（特にコーナー部）



■バネが正しく差し込まれていることを確認する

バネがトッププレートからはみ出していないか確認してください。

バネがコンロ本体の長穴に正しく差し込まれていない場合は、トッププレートをはずし、再度やり直してください。



トッププレートの取りはずし

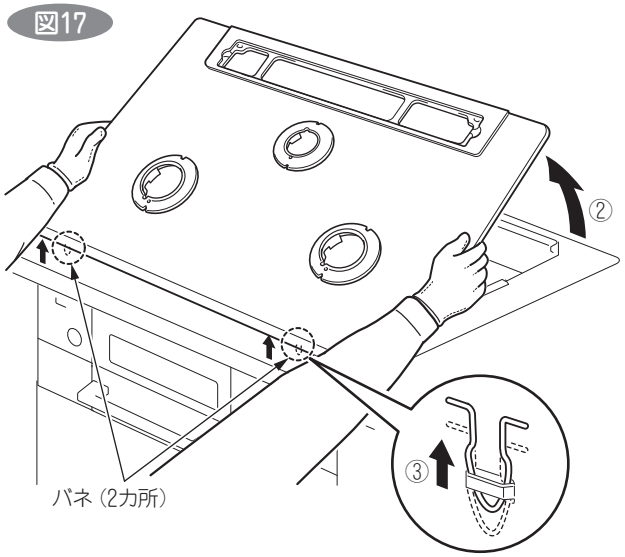
◉トッププレートをコンロ本体から取りはずす場合は、次の手順で行う。 図17

① トッププレート固定ねじをはずす。

② トッププレート後部を手前に向かって持ち上げる。

③ トッププレート前部裏面のバネ（2カ所）を引き抜く。

図17



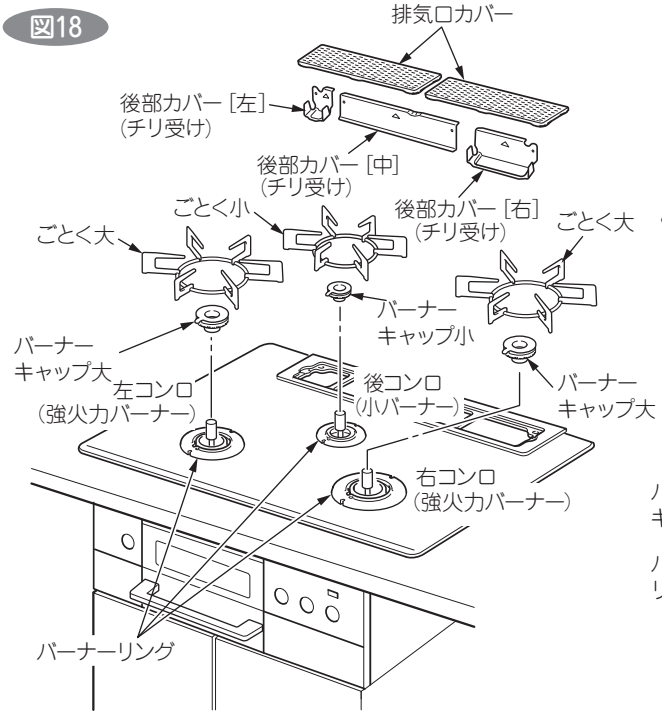
※トッププレートを持ち上げる際、手前に倒しすぎないでください。バネが変形するおそれがあります。
※バーナーリングが点火プラグに乗り上げた状態にならないようにしてください。
※バーナーリングがこすれて、点火プラグに汚れ（バーナーリングのこすれた粉）がついていないか確認してください。汚れがついた場合は、点火不良の原因になりますので、布などでふき取ってください。
※トッププレートのコーナー部（4カ所）を持って取りはずさないでください。

8．部品の取り付け

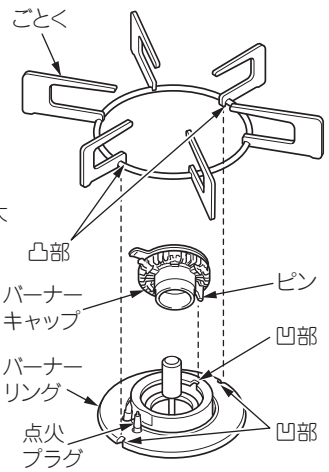
●詳しくは取扱説明書を参照。

◉バーナーキャップ、ごとくは、下図のように正しく取り付ける。

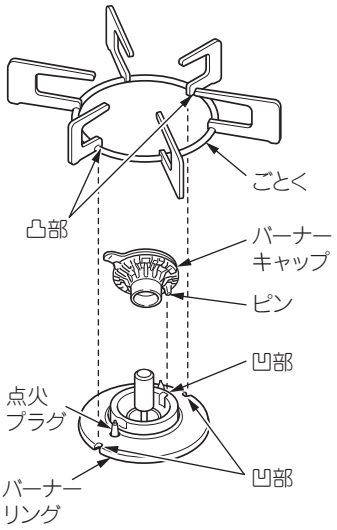
図18



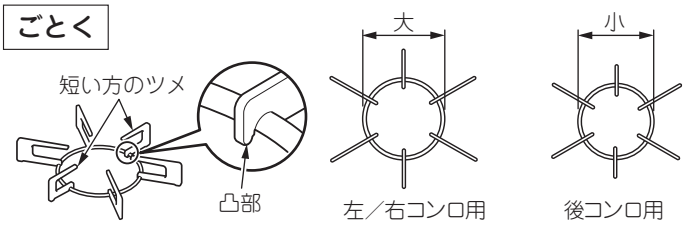
左／右コンロ（強火力バーナー）



後コンロ（小バーナー）



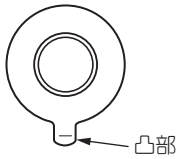
ごとく



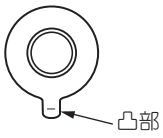
◉ごとく内側の凸部2カ所をバーナーリング前後の凹部2カ所に入れて正しく取り付ける。

※凸部はごとくの短い方のツメにあります。

バーナーキャップ



左／右コンロ用



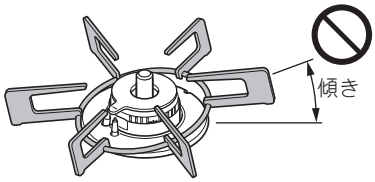
後コンロ用

◉凸部を前にしてバーナー本体後側の凹部にバーナーキャップのピンを入れて正しく取り付ける。

⚠注意

■ごとくは誤った取り付けで使用しない

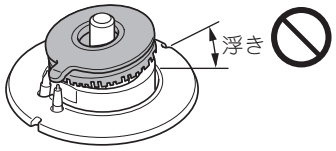
誤った取り付けをすると鍋などが不安定になり、傾いたり、倒れたりします。



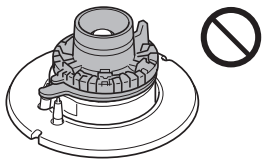
誤った取り付けの例

■バーナーキャップは誤った取り付けで使用しない

- バーナーキャップを正しく取り付けないと点火しない場合があります。
- 炎のふぞろいや逆火で不完全燃焼、一酸化炭素中毒のおそれやバーナーキャップが変形する場合があります。
- 機器の中に炎がもぐりこんで焼損する原因になります。



バーナーキャップの浮き

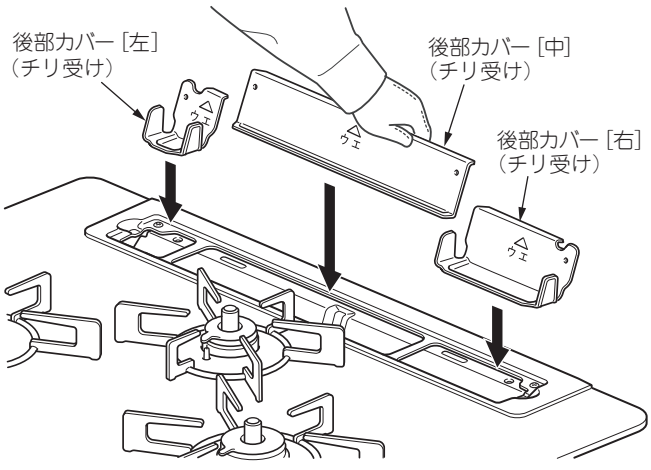

バーナーキャップの裏返し

後部カバー（チリ受け）

（RB タイプは同梱されていません。）

◉「ウエ△」刻印の向きを合わせて、後部カバー（チリ受け）［左、中、右］を本体後部に取り付ける。

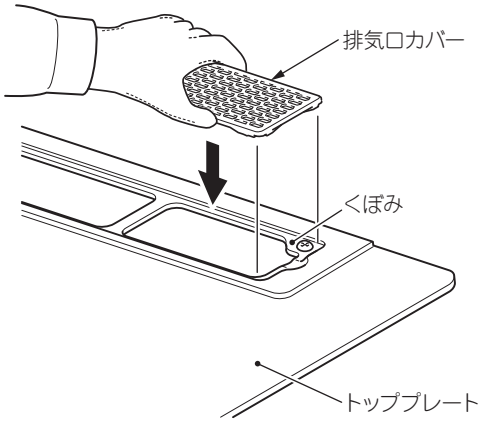
※オーブンとの複合設置をする場合、後部カバー（チリ受け）は取り付けできません。



排気口カバー

◉ 2 つの排気口カバーをトッププレート後部のくぼみに取り付ける。

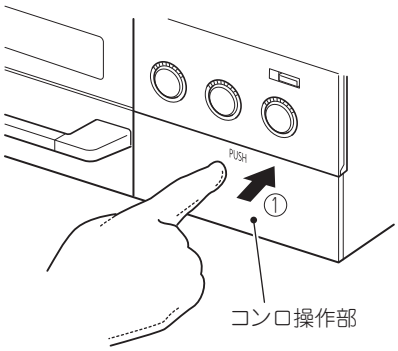
※傾きのないことを確認する。



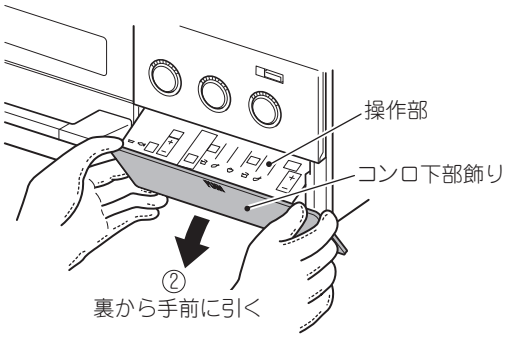
9．乾電池の取り付け

図19

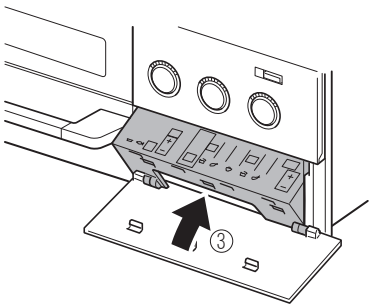
① コンロ操作部の「PUSH」付近を指で押し、押し込んだ指を戻すと操作部が出てくる。



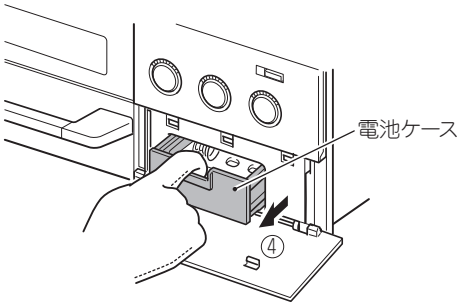
② コンロ下部飾りの両端上側を裏から両手で手前へ引くと、操作部からコンロ下部飾りがはずれる。



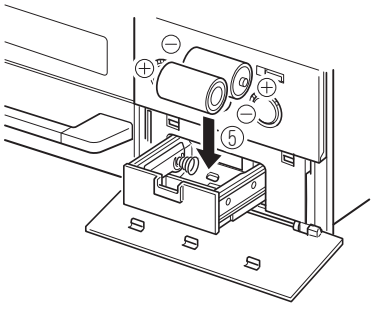
③ 操作部を本体へ押し込む。



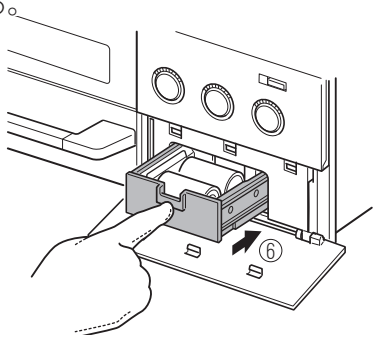
④ 電池ケースを止まるところまで、ゆっくりと引き出す。



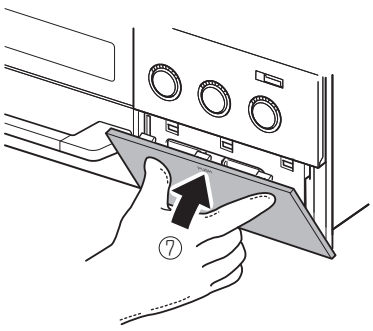
⑤ 単１形アルカリ乾電池（1.5V）２個を下図のように⊕⊖の向きを確認して、奥まで確実にはめ込む。



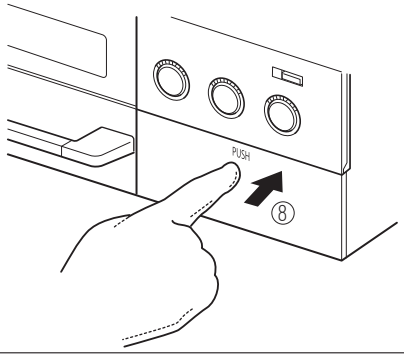
⑥ 電池ケースを奥までしっかり押し込み、本体に収納する。



⑦ コンロ下部飾りを本体へ押し込むと、操作部にコンロ下部飾りがくっついて出てくる。



⑧ 操作部の「PUSH」付近を指でゆっくり押し、操作部を本体に収納する。



10．ガス配管工事・ガス配管接続工事

◉ **5** **ガス配管工事・ガス配管接続工事・配線工事** を参照して、ガス配管工事およびガス配管接続工事を行う。

◉必ず、ガス漏れ検査を行う。

5 ガス配管工事･ガス配管接続工事･配線工事

⚠ 警告

■ガス配管接続には専門の資格・技術が必要です

- ●接続の際はガスシール材を必ず使用してください。
- ●ガス栓（ねじガス栓）を必ず取り付けてください。
- ●接続完了後、ガス漏れのないことを確認してください。
- ●取りはずした部品は必ず取り付けてください。

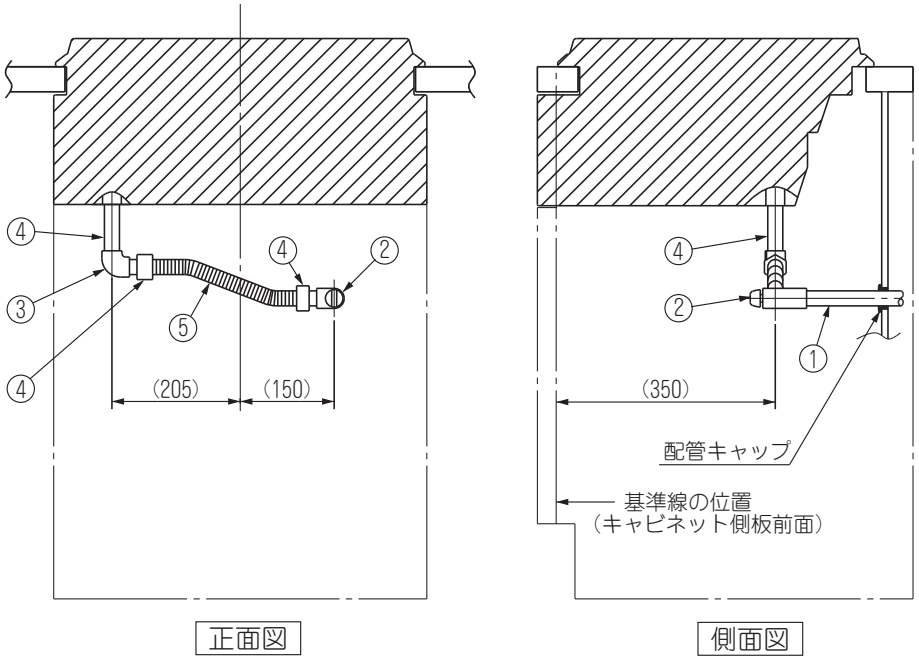
① コンロの配管方法

◉ガス配管接続は金属可とう管または金属管接続する。

◉配管周囲のすき間をなくすように、配管キャップなどを取り付ける。

※すき間が大きいと消火したり、炎がもぐりこんだりして異常過熱の原因になります。

（単位：mm）



標準配管例

No	配管仕様
①	ガス管（R1/2）
②	ねじガス栓
③	エルボ（Rc1/2）
④	ニップル（R1/2）
⑤	金属可とう管

② コンロとオーブンを複合で設置する場合の配管方法

◉ガス配管接続は金属可とう管または金属管接続する。

◉ガス配管接続と配管方法と電気配線工事は、オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照。

（対応オーブンは、型式にU、S（例：RBR-S14E、RSR-S14E）とつくタイプ。）

7 設置後の点検確認 の項目へ

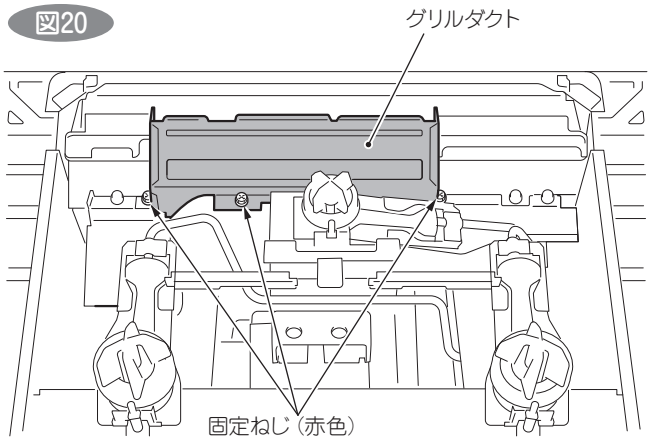
6 コンロとオーブンの複合設置

※オーブンとの複合設置をする場合、オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照し、**トッププレートから後面の可燃物との距離**を確認し、コンロとオーブン両方満足する距離を確保して、設置してください。
※オーブンとの複合設置をする場合、後部カバー（チリ受け）は取り付けできません。
※対応オーブンは、型式にU、S（例：RSR-S14E）とつくタイプです。それ以外のタイプは、別売のオーブン接続キットが必要になります。詳しくは、お買い上げの販売店、またはもよりの当社事業所にお問い合わせください。
※工場出荷時はコンロ単品での設置仕様になっております。これをオーブンと接続できる仕様に変更する必要があります。

1．部品の取りはずし

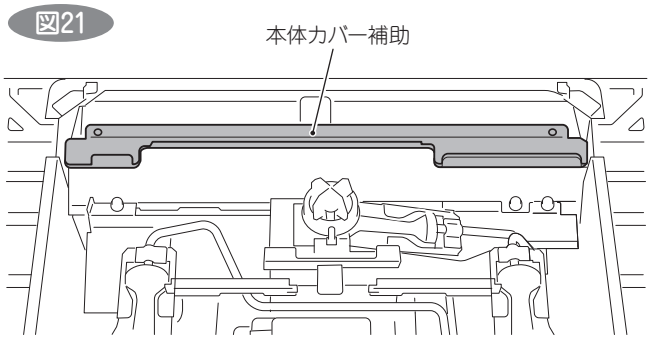
① グリルとびらとグリル庫内のグリル焼網、グリル皿、グリル皿受けを取りはずす。
（P 8 図 2 図 3 参照）
※グリルとびらのはずし方は P11 図 9 を参照する。
② グリルダクトを取りはずす。 図20
◉固定ねじ（赤色）3 本をはずして取りはずす。

図20



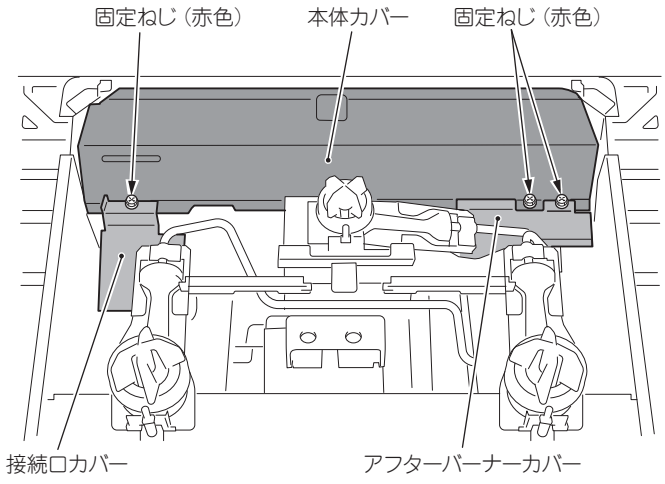
③ 本体カバー補助を取りはずす。 図21
※取りはずした本体カバー補助は不要です。

図21



④ 本体カバー、接続口カバー、アフターバーナーカバーを取りはずす。 図22
◉固定ねじ（赤色）3 本をはずして取りはずす。
※取りはずした本体カバー、接続口カバー、固定ねじ（赤色）2 本は不要です。
アフターバーナーカバー、固定ねじ（赤色）1 本は再び使用します。

図22



⑤　コンロ側接続口の接続用シール栓を取りはずす。
図23

◉本体内左後部にあるコンロ側接続口の固定ねじ（赤色）１本をはずす。

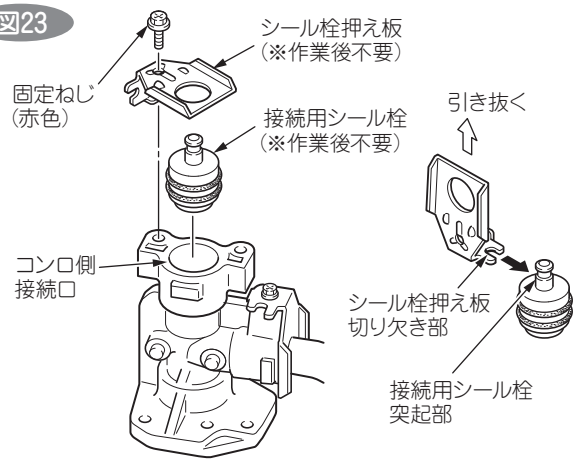
※固定ねじは再び使用します。

◉シール栓押え板を回転させて取りはずす。

◉接続用シール栓の突起部をペンチなどではさんで、引き抜く。

◉工具がない場合は、シール栓の突起部にシール栓押え板の切り欠き部を引っかけて抜く。

図23



⚠ 注意

■コンロを単独設置する場合は、接続用シール栓をはずさない

ガス漏れの原因になります。

■底シール栓、底シール栓押え板 図27 が確実にはまっていることを確認する

確実にはまっていないとガス漏れの原因になります。

■底シール栓押え板の固定ねじ（赤色）がゆるんでいないことを確認する

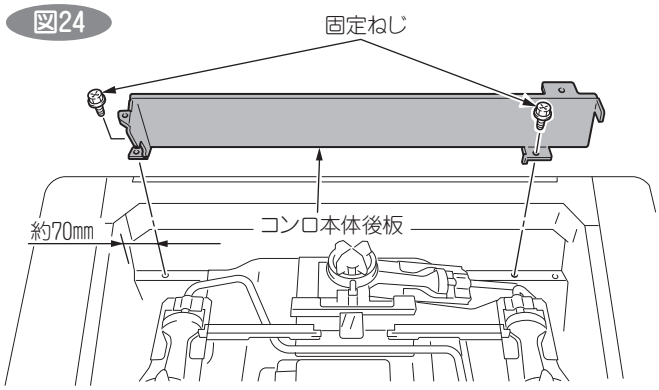
固定ねじ（赤色）がゆるんでいると底シール栓押え板がはずれて、底シール栓が抜け落ち、ガス漏れの原因になります。

２．部品の取り付け

①　コンロ本体後板を取り付ける。 図24

◉オーブンに同梱されているコンロ本体後板を右側によせて、固定ねじ２本で本体後部に取り付ける。

図24

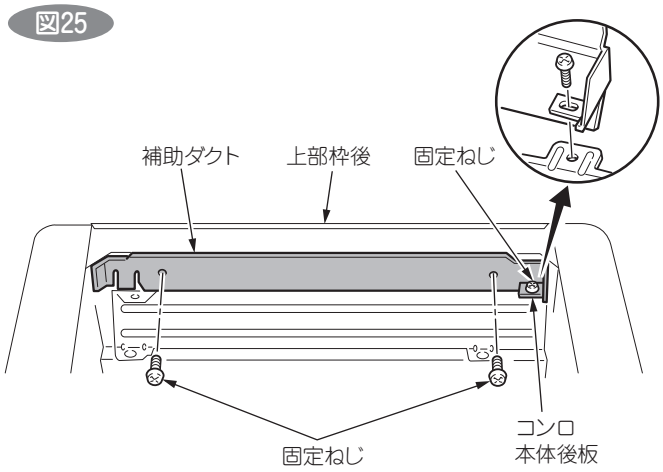


②　補助ダクトを取り付ける。 図25

◉オーブンに同梱されている補助ダクトを本体上部枠後に手前から固定ねじ２本で取り付ける。

◉コンロ本体後板右側に固定ねじ１本で補助ダクトを取り付ける。

図25



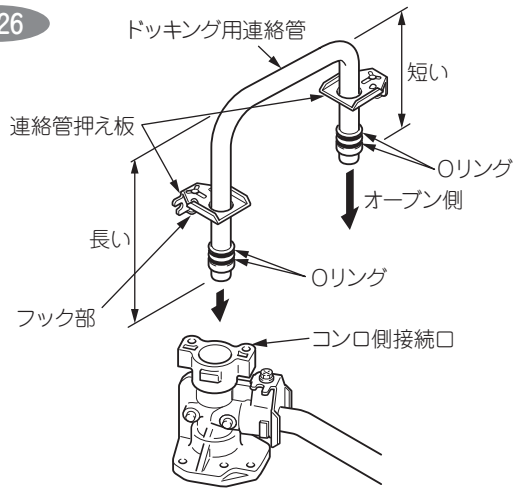
3．ドッキング用連絡管の取り付け

① ドッキング用連絡管を取り付ける。 図26

◉オーブンに同梱されているドッキング用連絡管の長い方を、コンロ側接続口に確実に奥まで挿入する。

※ドッキング用連絡管の取り付けは、コンロをオーブンに組み込んだ後からでも可能です。

図26



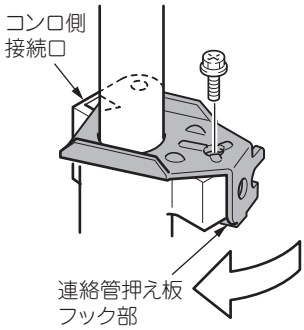
② 連絡管押え板を取り付ける。 図27

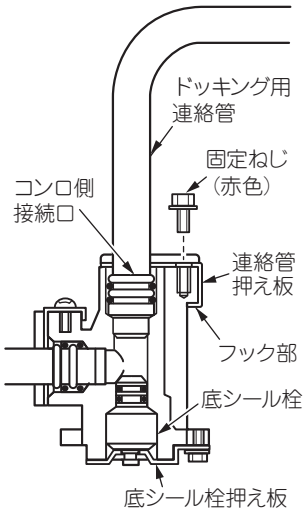
◉ドッキング用連絡管に付いている連絡管押え板を回転させ、フック部がコンロ側接続口にかかるようにして、 図23 ではずした固定ねじ（赤色）1本で確実に取り付ける。（取り付け位置は2カ所あるが、どちらでも取り付け可能。）

◉連絡管押え板が回転できずに、浮き上がるときは連絡管を確実に奥まで押し込む。

図27

【連絡管押え板の取り付け方法】
連絡管押え板を矢印方向に回転させ、フック部をコンロ側接続口にかける





⚠注意

■Oリング部のグリスをふき取らない。また、ガス用シール剤を塗布しない

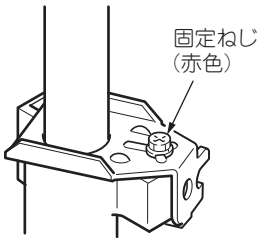
グリスをふき取ったり、ガス用シール剤を塗布すると、ガス漏れの原因になります。

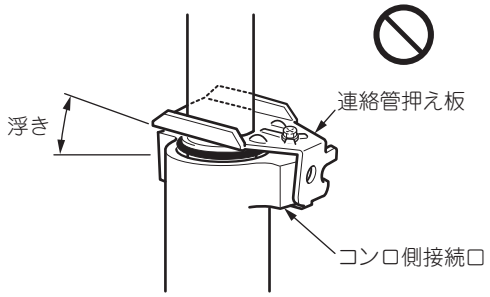
■ドッキング用連絡管にOリングが4個付いていることと、Oリングに傷がついていないことを確認する

Oリングの数が不足していたり、傷がついているとガス漏れの原因になります。

■連絡管押え板が浮いていないか確認する
■固定ねじが確実に取り付けてあるか確認する

連絡管押え板が浮いていたり、固定ねじ（赤色）が取り付けてなかったり、ゆるんでいたりすると、ガス漏れの原因になります。





4．コンロの組み込み前の作業

① オーブンを設置する。

◉オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照して設置する。

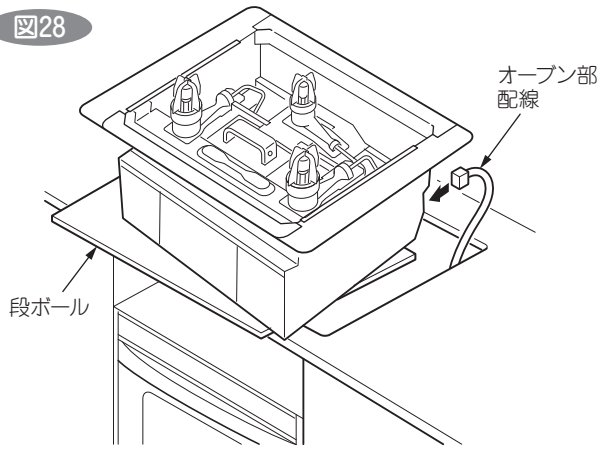
◉オーブンの接続用シール栓をはずす。

② コンロ部とオーブン部のコネクターを接続する。

◉カウンターに傷をつけないように段ボールなどを敷き、その上にコンロ部を乗せ作業を行う。

図28

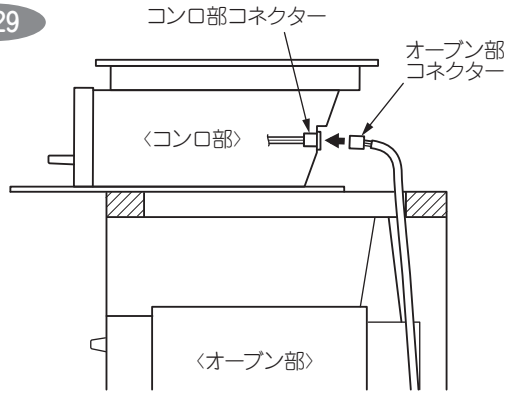
図28



◉コンロ右後部のコネクターにオーブン部配線のコネクターを確実に差し込む。 図28 図29

※オーブン部のコネクターを確実に差し込まないと、オーブン使用時にレンジフードが作動しません。

図29



5．コンロの組み込み

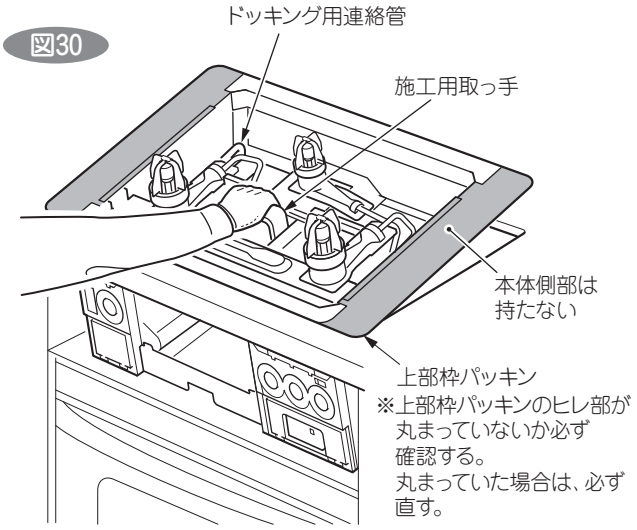
① コンロを組み込む。

◉設置時には、必ずコンロの施工用取っ手を持って行う。 図30

◉前面を先に挿入し、オーブン部の排気ボックスに乗り上げないように注意しながら、ドッキング用連絡管の管端を、オーブンの接続口に合わせて挿入し、コンロをオーブンに取り付ける。

図30 図32

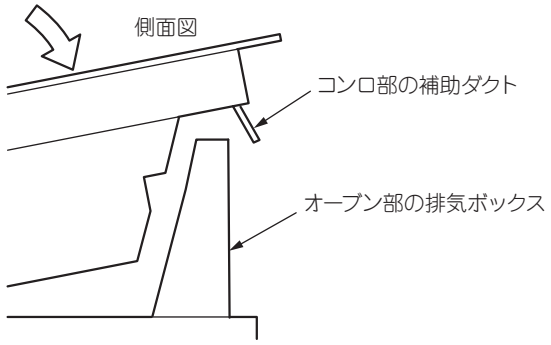
図30



◉ドッキング用連絡管をオーブンの接続口に最後までもう一度押し込む。 図31 図32

※コンロ部の補助ダクトが、オーブン部の排気ボックスに乗り上げていないか確認してください。

図31



② 連絡管押え板を取り付ける。 図32

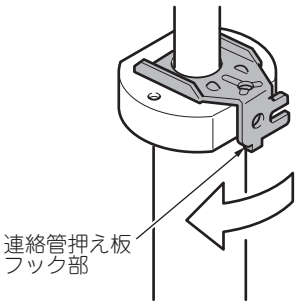
◉ドッキング用連絡管に付いているオーブン側の連絡管押え板を回転させ、フック部がオーブン側接続口にかかるようにして、オーブン側接続口から取りはずした固定ねじ（赤色）1本で確実に取り付ける。

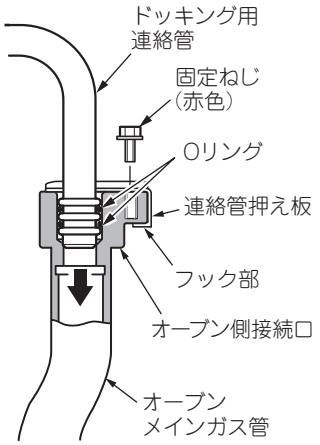
◉連絡管押え板が回転できずに、浮き上がるときはドッキング用連絡管を奥まで押し込む。

※オーブン側接続口に届かない場合は、オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照し、オーブンの高さ調節をして、確実に接続する。

図32

【連絡管押え板の取り付け方法】
連絡管押え板を矢印方向に回転させ、フック部をオーブン側接続口にかける





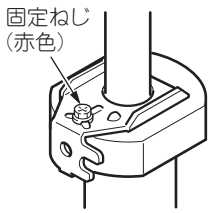
⚠ 注意

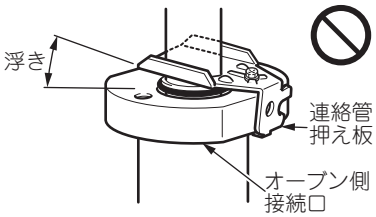
■Oリングに傷をつけない
ガス漏れの原因になります。

■Oリング部のグリスをふき取らない。また、ガス用シール剤を塗布しない
グリスをふき取ったり、ガス用シール剤を塗布すると、ガス漏れの原因になります。

■Oリングが付いていることを確認する
■ドッキング用連絡管の接続は、確実に行う

■連絡管押え板が浮いていないか確認する
■固定ねじが確実に取り付けてあるか確認する
連絡管押え板が浮いていたり、固定ねじ（赤色）が取り付けてなかったり、ゆるんでいたりすると、ガス漏れの原因になります。





6．下火カバー・グリルとびら・グリル皿受け・グリル皿・グリル焼網・エンドピースの取り付け

※ 4 コンロの単独設置 の P10、11を参照して、取り付ける。

7．コンロパネル飾り・グリルパネル飾り・コンロ下部飾り・グリル下部飾りの取り付け

※ 4 コンロの単独設置 の P12、13を参照して、取り付ける。

8．コンロ部とオーブン部の固定

① コンロ部とオーブン部を固定する。 図33

◉コンロ部の本体固定用穴とオーブン部の本体固定用ねじ穴を合わせる。

※コンロ部の前面とオーブン部の前面が合っているか確認する。

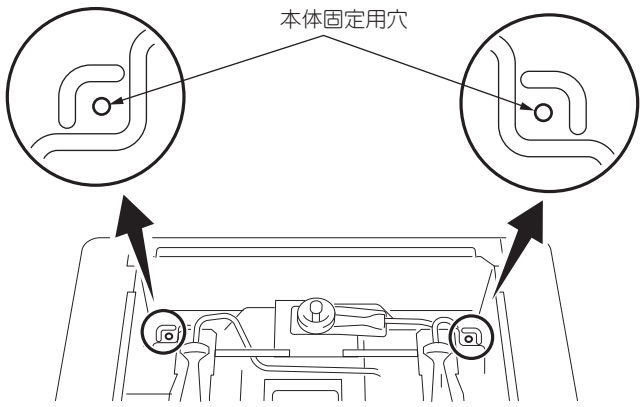
◉オーブンに同梱の本体固定ねじ（M５ねじ（赤色））２本で固定する。

② ワークトップに固定する。

※ 4 コンロの単独設置 の P13 図14 を参照して、止めねじ４本で取り付ける。

※オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照して、オーブンを固定する。

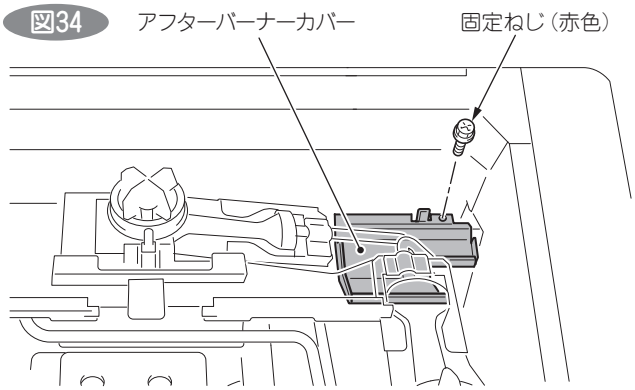
図33



9．アフターバーナーカバーの取り付け

◉ P20 図22 で取りはずしたアフターバーナーカバーを 図22 ではずした固定ねじ（赤色）１本で取り付ける。 図34

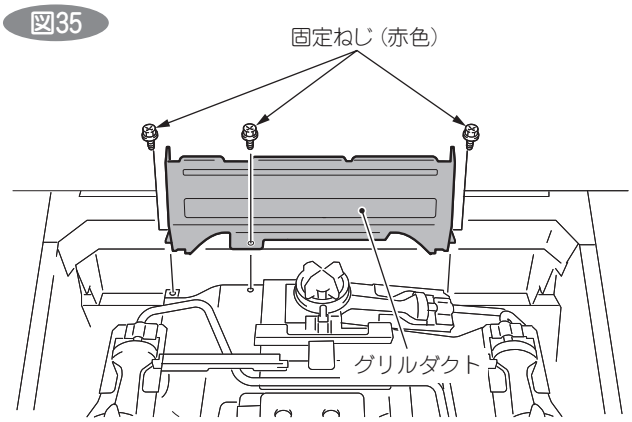
図34



10．グリルダクトの取り付け

◉ P20 図20 で取りはずしたグリルダクトを 図20 ではずした固定ねじ（赤色）３本で取り付ける。 図35

図35



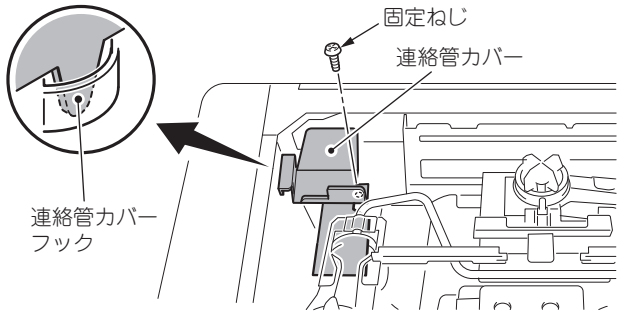
11. 連絡管カバーの取り付け

◉オーブンに同梱の連絡管カバーのフックをコンロ本体側板の溝に引っかけ、もう一方は、コンロ本体後板の左側に、固定ねじ1本で固定する。

図36

※温度センサーのハーネスなどが引っかからないよう注意する。

図36



12. 部品の取り付け

◉トッププレート・ごとく・バーナーキャップ・排気口カバー・乾電池などを取り付ける。

※ 4 コンロの単独設置 の P14～18を参照して、取り付ける。

13. ガス配管工事・ガス配管接続工事

※オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照して、ガス配管工事およびガス配管接続工事を行う。

※必ず、ガス漏れ検査を行う。

7 設置後の点検確認

◉チェックリストに基づいて確認する。

点検項目		点検内容	参照項目	チェック
機器およびその周辺	ガス種	使用するガス種に適合しているか。（銘板確認）	1	
	可燃物との離隔距離	可燃物との離隔距離、火災予防上の措置は十分か。	1	
		オーブンとの複合設置をする場合、オーブンの設置工事説明書で離隔距離を確認したか。		
	水平設置	水平に設置されているか。	1	
	安定設置	ガタツキはないか。	1	
	換気設備	十分換気できる場所に設置されているか。	1	
キャビネット		キャビネットに背板があるか。（機器後方に穴があいていないか）	1	
ガス配管接続工事		ガス漏れはないか。	5	
ラベル貼付		接続員の設置者ラベルおよび連絡先のステッカーを貼付したか。		
同梱部品		部品の不足はないか。また正しく取り付けられているか。	3 4	
レンジフード連動		レンジフードが正しく作動するか。	6	
その他		グリル、オーブン庫内に包装部材が残っていないか。		

■レンジフード連動信号の切り替え

※レンジフードの取扱説明書を参照して、メーカー名を確認してください。

レンジフード側信号	主なメーカー名	右コンロ表示部
NEC フォーマット	富士工業製	1 ← 出荷時設定
家製協フォーマット	パナソニック製	2

◉出荷時の機器のレンジフード連動信号は NEC フォーマットに初期設定されているので、家製協フォーマットに変更するときは下記の操作を行う。

設定手順

① 電源を入れ、全バーナー消火の状態にする。
② 操作部のグリル「－」スイッチと後コンロ「＋」スイッチを約 3 秒間同時に押す。
③ グリルの「＋」「－」スイッチを押し、メンテナンスモード No.「08」を選択する。
④ 右コンロの「＋」スイッチを約 3 秒間押して、右コンロ表示部を「 2 」にする。
⑤ 電源スイッチを押して、電源を切る。
⑥ 点火／消火操作を行い、レンジフードが連動することを確認する。

8 試点火および試運転

① 試点火および試運転

◉正しく設置されていることを確認してから、機器のガス栓（ねじガス栓）を開き、取扱説明書に基づき、点火および作動の確認を行う。

② 試運転終了後の処置

◉試運転終了後は、必ず機器のガス栓（ねじガス栓）を閉め、乾電池を取りはずす。
また、オーブンを設置した場合には、電源プラグをコンセントから抜いておく。

◉「魚とって」が同梱の機種は、「魚とって」をグリル庫内に保管せずにお客様にお渡しするか、トッププレート中央部に置いておく。

③ お客様への説明

◉必ず取扱説明書に基づいて、機器の取り扱いを説明する。

◉必ず取扱説明書の保証書に必要事項を記入のうえ、保証内容を説明する。

◉取扱説明書、設置説明書の保管のお願いをする。

製造者 リンナイ株式会社

JS0029-051×01（00）
07000005270190

この紙は再生紙を使用しています。